

# Challenge! 誇り高き獅子たち



## 先輩 Interview

### 大同建設株式会社

建築部

●入社4年 大野 友也さん

九州職業能力開発大学校卒業

建築部 / 現場所長

●入社26年 大川 実さん

一級建築士 / 一級建築施工管理技士

北九州市に本社を置く大同建設株式会社  
(山本 憲一郎代表取締役社長)に  
入社して4年の大野さんと、その上司である  
大川所長にインタビューしました。

取材現場は、4階建の病院の建替え工事。  
入社4年を迎える大野さんにとっては5件目となるこの現場。現在は基礎工事の段階でした。現場がスムーズに進むよう現場所長の下で業務に携わっています。この1年で施工図も描き始めた大野さん。施工図とは、職人さんが施工するために細かい寸法まで考慮して、調整するため現場での経験がないと描けません。「経験を積んで、もちろん責任も増えましたが、今は楽しいです」と、意欲の高さが伺えます。

この現場で現場所長を務めるのは大川さん。実は1年目の現場でも一緒だったそう。「彼と同じ現場は2度目。1年目と比べると成長しましたね。彼はとにかく明るい!めげないし、自分からグイグイと輪に入って行って、情報を得るタイプ。それは変わっていません。初対面でもどんどん聞けるタイプなので、職人さんからもかわいがられています」。

大同建設株式会社は、現在16名が現場に出ています。大野さんにも後輩ができました。「人に教えるというのは、自分を振り返ることにもなり、勉強になります!」これからもたくさんの現場を経験して、立派な現場監督になってくれることを期待しています。



## DREAM

「二級建築施工管理技士の資格を取って、現場を任せていただけるよう早く一人前になりたいです」



姉、兄の3人きょうだいの末っ子。お兄さんが建設業の道に進んだ影響もあって、高校卒業後は同じ道へ。「もともとモノづくりが好きで、建物がどのように作られているのか興味があったんです」

入社4年を迎えて  
自分のレベルアップを!

現場係員 大野 友也さん

「分かるどころ、分からないところが見えてきたので、上司や職人さん方に聞いて解決して、今は自分のレベルアップをはかっているところ」。愛媛県出身の大野さんは、高校卒業後、香川の四国職業能力開発大学校で2年学んだ後、北九州にある九州職業能力開発大学校へと進学しました。卒業後大同建設株式会社へ入社。学生時代、大同建設株式会社へ実習で訪れた際に感じた、現場の雰囲気や先輩たちの話を聞いて、入社を決意したのだとか。「あの時に感じた、現場の和気あいあいとした印象は今も同じです」。昨年は資格取得にもチャレンジ。結果が待ち遠しい現在です。

現場を一つにする  
チームワークが大事

現場所長 大川 実さん

現場監督の仕事というのは、自分の頭だけで考えてもダメ。担当者や上司、職人さんなどに相談すること。垣根をこえて知恵をもらうことが大事。お客様にいいものを提供するという信念で、チームとして現場を進めていきます。だから日頃からコミュニケーションを取ることは大事なことです。



「工期が短い、現場の環境など、現場の課題もさまざま。どこに突破口を見つけるか、施工の流れを考え、どうやったら解決できるか、それを考えるのも現場監督の仕事です。見つけたときの達成感は格別」と大川所長。



「今もう退職された先輩の話ですが、不思議とその方が困ったときは、同僚はもちろん、担当じゃない業者さんまで助けてくれていたんです。日常的に“周りの人とどうつきあってきたかが苦境に立たされた時わかるんだ”と今となっては気が付きますね。先輩からたくさんのお話を教わったように今度は私が大野くんたち後輩に何を伝えていこうか、これからの課題です」と大川所長。



「大野くんはどこに出しても恥づかしくない。これからも初心を忘れずに、がんばってほしい」社長(写真1番左)からの温かいエールも。

